

学校名：東京女子学園中学校

氏名：黒川 八重

[担当教科：社会]

●実践教科等：社会（地理）

●時間数：6時間

●対称生徒：中学1年

●対象人数：19人

1 単元名

南アメリカ州－南アメリカ諸国と日本が双方向的に共生する社会を目指して－

2 単元の目標

・南アメリカ諸国の文化の特徴と産業の変遷を理解し、南アメリカ諸国と日本の未来に続く関係性を考える。

【より良い未来を構築する力】

・森林の耕地化が進んだ結果、どのような問題が生じているのか、多面的多角的に考察して、持続可能な開発に関わる一般的課題と南米諸国特有の課題を比較考察する。

【多面的・総合的に考える力】

3 単元の指導について

(1) 教材観

現行の学習指導要領の地理的分野の目標の1つに「地理に関わる事象の意味や、特色や相互の関連を、位置や分布、場所、人間と自然環境との相互依存関係、空間的相互依存関係、地域などに着目して、多面的・多角的に考察したり、地理的な課題の解決に向けて公正に選択・判断したりする力、思考・判断したことを説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。」がある。本時の目標である「今まで学んできたことを活かして日本とパラグアイの未来の関係を考える」は両国の地理的特色や歴史背景を踏まえて今抱える課題解決を思考し、自分の言葉で説明していく過程において、学習指導要領の目標を達成するに最適の教材である。

(2) 生徒観

本校は明治期から続く中高一貫の女子校であり、初代校長棚橋綾子の言葉「人の中なる人となれ」を教育理念に掲げている。「人の中なる人」にグローバル化が進む現代においては、「世界とつながる人」との解釈を加えており、この理念に基づいて入学した生徒は国際社会に興味を持っているといえる。しかし、生徒たちが考える国際社会とは先進国である欧米社会であり、途上国への知識理解は非常に低く、それゆえに興味関心も低い。途上国についても日本との関連付けながら基礎知識を学ぶことで、興味関心が高まり、生徒の考える「世界」は広がるはずである。

また今年度の中学1年生は、積極的に自分の意見を発表できる生徒が多いので、活発でより深い意見交換ができるような授業展開をしていきたい。

(3) 指導観

日本にとって遠い存在の南アメリカ州には日系社会が今も存在し、南アメリカ諸国にとっての日本は身近であることをパラグアイで撮った写真やインタビューしてきたことを駆使して伝えたい。これらの第1次資料を通して南アメリカ州に親近感を持って、日本と南米諸国が互いに協力し合う方法を、グループ学習やジグソー法などのアクティブラーニングを通してクラス全員に多面的に考えさせたい。

4 評価基準

観点	関心・意欲・態度	思考力・判断力・表現力	学びに向かう力	知識および技能
評価基準	●パラグアイからみる南米諸国の課題に関心を持つことができる。 ●課題解決に向けて積極的に考え、自	●パラグアイの現状の課題を理解し、文章にすることができる。 ●現状の課題に対する政府や国際社会の対応策を知り、自分の意見を述べ	●南米諸国の課題と他州や日本の課題を比較し、結びつけて考えることができる。 ●課題解決の方法を	●南米の自然環境、民族構成、伝統文化、主要産業の現状を知る

	分の意見を言える。 ●グループワークで意見交換ができ、考えを深めることができる。	ると同時に他者の意見を踏まえて考えをまとめることができる。 ●南米を学習した上で、自身が考えたことを発表できる。	多面的なものの見方から導き出しより良い未来を構築できる。 ●今自分にできることを考えられる。	●雨温図はじめグラフ、地図、写真から分かることを整理し、他者の意見と合わせ、総合的に分析できる。
評価方法	●授業中の様子 ●グループワークの取り組み状況	●授業中の様子 ●授業プリントの記述	●授業プリントの記述 ●授業の感想文	●授業プリントの記述 ●定期テスト

5 単元の構成

時	小単元名	学習のねらい	学習活動	資料など
1	自然環境	南アメリカ州全体を視覚的にとらえる。	南アメリカ州の地形、川、山脈、気候を知る	白地図、地図帳
2	多様な民族と人々の生活①	<ul style="list-style-type: none"> 日本の反対側にあるパラグアイに関心を持つ（興味関心） 日パラの相違を見える化する（情報整理能力） 民族構成のグラフからパラグアイ人の特性を探る。（推察力） 	パラグアイと日本の基礎知識（気候、人口、人口密度、面積、中心産業） SDGsの再確認	地球儀、正距方位図法、民族構成グラフ、雨温図、現地写真（服装が分かるもの） GNI ランキング GDP 成長率ランキング
3	多様な民族と人々の生活②	<ul style="list-style-type: none"> 日系移民の歴史から当時の日本の様子を考える。（推察力） 日系人と日本人の現在のつながりを考える。（課題発見能力） 	<ul style="list-style-type: none"> 南米へ移住した日系人の歴史を知る。どの都道府県からいつ移住した人が多いか知る。 東日本大震災の時の支援から現在もつながりがあることを知る。 	JICA 横浜の資料 浜松市作成のブラジル移民の動画（浜松国際交流協会～ともに生きる浜松の未来～アニメーション教材 www.hihice.jp/publish/tools.html)
4	多様な民族と人々の生活③	日本人会、日本語学校で聞いたことから日系社会の思いや今後の課題を考える。（情報収集力、課題発見能力）	インタビュー内容や、日本語学校掲示の「私たちは何者か」という生徒作品から日系社会の世代間意識の違いや今後の課題を学ぶ。	日本人会の河野さん、日本語学校の後藤校長インタビュー動画、「私たちは何者か」生徒作品、日系農家さんの言葉
5	大規模化する農業	<ul style="list-style-type: none"> パラグアイ人農家、パラグアイ日系農家、日本の農家それぞれの魅力と課題を探る（情報収集力、課題発見力、多面的な視点を持つ力） 	主要農産物、農業技術、農地、住居について、日系農家とパラグアイ人農家、日本農家に分かれて調べ、チームごとに発表する。	現地で撮ってきた写真、日本の農家に関する写真
6	発展する工業	<ul style="list-style-type: none"> 日本によるパラグアイ支援を知る。（情報収集力） 将来、パラグアイによる日本支援の可能性について考える。（横断的な思考力） 	<ul style="list-style-type: none"> 日本による具体的なパラグアイ支援について現地写真を利用して知る。 パラグアイの魅力を含めた授業を振り返って書き出すことで、将来性について考える。（情報活用能力、批判的思考力） 	現地で撮ってきた写真、JICA パラグアイの資料、これまでの授業で出してきた資料（GDP 成長率ランキング、日系農家さんのコメントなど）

7	環境問題、産業の発展と開発に伴う課題	日本とパラグアイの未来の関係性について、相互扶助のための具体案を考える。 地球規模の課題を自分事としてとらえ、地球市民として取り組むべきことを考える。	パラグアイの課題と関連するSDGsと日本の課題と関連するSDGsの関係性を考える。また南米諸国が抱える課題、地球規模で抱える課題に触れ、国を超えた地球市民として取り組むべきことを考える。	アマゾン流域火災の新聞記事
---	--------------------	--	---	---------------

6 授業事例の紹介

小単元名【 発展する工業—日本とパラグアイの未来の可能性を考える— 】

(1) 指導案

(ア) 実施日時 10月8日(火)1限

(イ) 実施会場 中学1年1組(B31)教室

(ウ) 本時の目標

- 写真の細かいところまでよく見て、正しく情報を読み取る。
- 今までの授業で登場したグラフやインタビュー動画および記事の内容と本時で提示する写真からの情報を組み合わせて、パラグアイの現状を理解する。
- 現時点での日本によるパラグアイ支援の内容を現地写真を通して具体的に知る。
- 10年後、30年後の日本とパラグアイの関係性について根拠をもって想像する。

過程・時間	教員の働きかけ・発問および学習活動 ・指導形態	指導上の留意点 (支援)	資料(教材)
導入 (10分)	<p>前回授業の振り返り</p> <p>「前は日本と比較しながらパラグアイ農業について学習しました。ではパラグアイの工業はどうなっているのでしょうか。予想してみよう。」</p>	<p>パラグアイの農業を振り返って、食料は豊かにあるが、加工業は輸入に頼っていることを指摘。</p>	<p>☆1 豊かな食糧の写真</p> <p>☆2 加工品の原産国、価格が分かる写真</p>
展開	<p>「同じ食料品でも、お菓子や調味料、飲み物など、加工品は輸入に頼っています。食料品だけでなく工業製品の分野も外国に頼っています。今、パラグアイの工業化に向けて日本は様々な協力をしています。」(写真を見ながらワークシートに日本による支援を箇条書きしていく)</p> <p>「工業化以外にも、パラグアイにはいくつか課題があります。何だと思う？」 (写真を見せながら、ワークシート記入)</p> <p>「日本による支援もあって、今パラグアイは経済成長しています。このグラフ覚えているかな。」「この先10年後、30年後、日本とパラグアイの関係は支援する側とされる側のままだろうか。」「現在の関係も、今日勉強した日本がパラグアイを支援するだけの関係ではなかつ</p>	<p>写真を見せて、教育の問題、肥満・成人病の問題に触れる</p> <p>日系農家伊藤さんの話で「日系人は日本</p>	<p>☆3 職業訓練校、浄水施設の写真、JICAパラグアイの資料</p> <p>☆4 サンタエレナ小学校のMaPara、カアグアスの保健ポストの写真</p> <p>☆5 GDP成長率ランキング(前出)</p> <p>☆6 東日本大震災のときの豆腐支援プロジェ</p>

(30分)	<p>たよね。どんなつながりがあったかな。」(発表させて、日系社会があることを復習)</p> <p>「東日本のときはパラグアイが日本を支援してくれたね。将来、日本とパラグアイの関係はどうなっていくだろう。」</p>	とパラグアイをつなぐ架け橋となる」に注目	クト、ラパス日本語学校の生徒のメモ、日系農家伊藤さんの話(前出)
(10分)	<p>まとめ</p> <p>「今日学習したことを振り返って、日本とパラグアイの今と未来の関係性について、ワークシートにまとめてみましょう。」</p> <p>(時間があれば、何人か発表してもらおう)</p>		

【評価規準に基づく本時の評価方法】

発問に対して、どれだけ資料から読み取れたことを自分の言葉で伝えられているか。クラス全員は発言しないので、ワークシートに記入されている内容を見て、情報収集力、情報活用力、横断的な思考力の観点で評価する。

【本時で用いた資料】

☆1 パラグアイの豊かな食糧



☆2 日本からの輸入品

カレーのルーは 37800 ガラニー (約 800 円)、しょうゆは 53500 ガラニー (約 1000 円) ととても高価



☆3 浄水施設の写真

日本とパラグアイの国旗が並んでいるところに注目



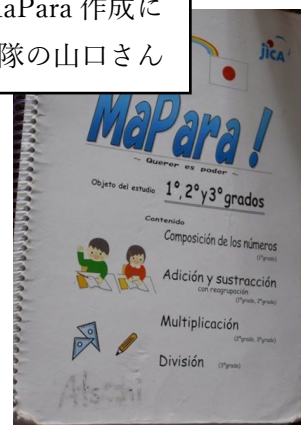
☆3 職業訓練校
日本人の先生がいる



☆4 保険ポストで働く協力隊の村上さんが近くの小学校で歯磨きしている様子

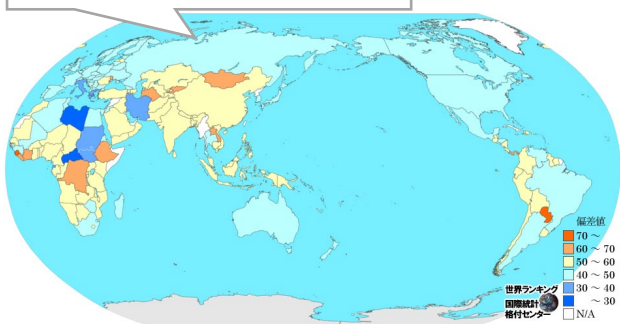


☆4 サンタエレナ小学校で算数の指導書 MaPara 作成に取り組んだ協力隊の山口さん



☆5 GDP 成長率ランキング
パラグアイの成長率が高い

本時で使った
ワークシート



⑤ 南アメリカ州

(4) 発展する工業

パラグアイには(1 **食料**)が豊かにあります。しかし、飲み物や調味料、毛布などの日用品といった加工品は(2 **輸入**)に頼っています。遠く離れた日本から(3 **輸入**)している調味料は値段もとても(4 **高い**)です。

▶工業製品はどうでしょうか。→ ⑥ **工業製品も輸入に頼っている**

▶日本によるパラグアイ支援にはどのようなものがあるでしょうか。

→ ⑥ **浄水施設の設置、職業訓練校などの技術者の育成...**

▶他にも次のような分野での支援も日本は取り組んでいます。

→ ⑦ **教育の分野、予防医療をはじめとする保険の分野...**

▶日本の支援もあって、パラグアイの経済成長率は今、(8 **上昇**)しています。

▶日本とパラグアイの今の関係性について、今まで学習してきたことを振り返って書こう。

⑨ (生徒の解答例)

- 日本はパラグアイを支援している。
- パラグアイも東日本大震災のときに豆腐で支援してくれた。

▶日本とパラグアイの未来の関係はどうなっていくと思いますか。

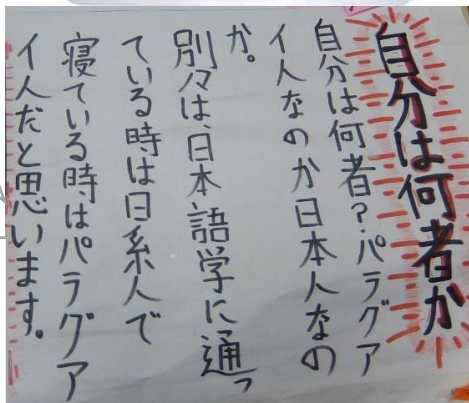
⑩ (生徒の解答例)

- パラグアイが日本を支援している。
- 今よりお互いに関心を持って助け合っている。
- 日本からの輸入品をパラグアイでもっと安く買えるようになっている。

☆6 東日本大震災のときに日系パラグアイ農家が応援してくれた豆腐プロジェクト



☆6 ラパス日本語学校の生徒作品



☆6 「日系移民は両国の架け橋」という箇所に注目

日系農家伊藤さんの話

「思春期の頃はみんな(日系人は)帰属意識に悩みます。中学生のスピーチコンテストに『私は何人?』というテーマがありますが、最終的には日本人でもパラグアイ人でもない“日系人”として両国の架け橋となる新しい人種でいいじゃないか、という結論にいたりますね。

でも大体はパラグアイ人の感覚です。やはり生まれたときからパラグアイに住んでいるし、日本に行ったこともないからです。移民1世の人はパラグアイ人の時間のルーズさにイライラするとよく聞きますが、2世以降になると「しょうがないじゃない?」と流せる人が多いです。大体の人が(日本とパラグアイの)二重国籍です。

(2) 授業の振り返り

本時までの授業で、パラグアイについてと、パラグアイと日本の関係について、ジグソー法やフォトランゲージ、グラフやインタビュー記事、動画視聴など手法や教材の提供方法を変えてグループワークに取り組んできたが、いつも時間が足りず、全体で分かったことを共有できずに終わってしまっていた。しかし本時の最後の問い「パラグアイと日本の未来の関係性について考える」のワークシート記入に個人個人で取り組んでいるのを机間巡視した際に、生徒たちなりに、今までの授業を消化して、2か国の未来に思いを巡らせていたことが分かった。本時はこの50分間の成果ではなく今まで学習してきたことの集大成となる授業となった。さらに次の南アメリカ州最終時間に、パラグアイと日本の2か国の関係から世界規模の関係に興味関心を広げる授業展開につなげていった。その際SDGsの観点から考えることで、今まで学習した情報をつなぎ合わせることができた。

7 単元を通じた児童生徒の反応／変容

遠く離れた国でも、年齢の近いラパス日本語学校の生徒メモや中学生を主人公にした動画には反応が高く、教員側からの問いにも積極的に考えをめぐらせていた。東日本大震災のときの日系パラグアイ農家による豆腐支援プロジェクトを知ってどう思ったか、という問いにも積極的に取り組んでいた。どんな地域を扱う授業でも「生徒たちとの接点」を意識した教材にすることで、自分ゴト化して考えることにつながるのではないかと思う。

また、本時の最後の問い「パラグアイと日本の未来の関係はどうなっていると思うか」では、直前に見たGDP成長率から「パラグアイが豊かになって、日本が貧しくなっている」とワークシートに記入した生徒もいたが、ほかの生徒の記述を紹介すると、それ以前に学んだ日系農家の豆腐支援や日系農家伊藤さんの話なども思い出して、「お互い助け合っている」よりよい未来を想像することができた。今回の単元を通して、前向きに考えるようになった生徒が現れたのは大きな変化だと思う。

8 授業実践全体の成果と課題及び課題の改善策

こちらが素晴らしいと思う教材でも、表面的な部分（例えば動画の語り口や最初のワンシーン）で、生徒の意識が教材に向かないことがある。また教員側が素晴らしいと思う教材でも、中学生には理解しにくい内容もある。授業の反応を見ながら、中学生の気持ちになって教材を用意すること、授業スタイルを考えること、問いを立てることが大切である。

具体的に、動画視聴して分かったこと、印象に残ったことをワークシートに記入する4時間目の授業は、動画ではなく、文字にして読み上げた方が、理解が深まった気がする。

また毎回微妙に時間が足りず、グループワークで話し合ったことをまとめ切れていないグループがあったり、グループワークの内容を全体で共有する時間がなかったりするまま、授業を進行させてしまった。今回の単元については、該当時間に資料が読み取り切れなかった部分ものちの授業で、生徒が腑に落ちて理解できた部分もあったのでそこは良かったと思うが、それでももう少し時間をかければ理解が深まった部分も多くある。

今後は、限られた時間の中で消化不良を起こさずに、理解を深めるために更なる授業構成の再考が必要である。

9 教師海外研修に参加して

自分の目で実際に見て、一次資料を手に入れたことで、普段の授業で用意できる教材よりはるかに豊富な教材を用意できた。今まで教科書の内容はきちんと伝えることができて教科書以上のことを授業に盛り込むことはなかなかできていなかったが、今回教師海外研修に参加したおかげで、内容の深い授業を情熱的に展開できたと思う。これを機会に今後旅行に行く際にもどんな部分に着目して写真を撮ったり、現地の人に話しかけたりすれば、授業に活かせるのかも見えてきた。また様々な校種の先生方に出会ってともに学んできたおかげで授業内容についてもたくさんヒントをいただくことができた。研修を活かした授業案作りを通して、自分自身もまた多面的なものの見方が今までよりできるようになったと思う。